

# 春秋会

ニュースレター

2025年

10・11月号



## 11・12月の予定

- ・11/17 (月) 18:30～  
会計のいろは研修
- ・11/19 (水) 12:00～  
幹事会
- ・12/3 (水) 18:00～  
研修企画 (講師 中井洋  
恵先生・中森俊久先生)
- ・12/4 (木) 19:00～  
ワインの夕べ
- ・12/11 (木) 19:00～  
人権大会懇親会 (長崎)
- ・12/17 (水) 12:00～  
幹事会
- ・12/25 (木) 18:00～  
春秋会 12月総会

## 春秋の日のご報告

研修委員会 那須 幸実 (77期)

### ■行政のリアルを「市長×弁護士」の視点で――

春秋会研修委員会は、令和7年10月15日(水)、裁判所の向かいにあるsumile OSAKAで「春秋の日」を開催しました。今回の講師は、奈良県香芝市の現職市長であり、春秋会会員(75期)でもある弁護士・三橋和史先生。テーマは「弁護士と市長、二つの立場から見る行政の関わり方」です。

例年、ベテランの先生をお招きして開催される「春秋の日」ですが、今年は趣向を変え、現役の市長として奮闘される若手弁護士にご登壇いただきました。会場には春秋会員のほか、大阪弁護士会行政連携センターの先生方も参加されました。



講師の三橋和史先生

### ■行政の現場から見た“動かない組織”

前半は、三橋先生が奈良県庁勤務時代に経験された数々の出来事についてお話しいただきました。奈良市の土砂違法掘削問題では、公文書が改ざんされ、発覚後には誰が改ざんの事実を暴いたか“犯人探し”が行われるなど、行政内部の体質を目の当たりにしたといいます。また、生駒市の違法盛土問題では、行政内部で責任の押し付け合いがなされ、是正権限を行使すると自己に責任があると認めたことになるからと、長期にわたり権限行使がされませんでした。「住民の安全よりも内部の政治が優先されてしまう」という現実を実感されたそうです。

### ■法務感覚で市政を変える

後半では、「市長と弁護士の業務の重なり合い」についてお話しいただきました。就任後すぐに立ち上げたのは、弁護士や法科大学院修了者



を配置した「文書法制課」。ほとんど全ての案件が同課の審査を経る体制を整備し、法的に筋の通った行政を目指しているそうです。さらに、市職員の昇任試験に「論理分野」と「法務分野」を新設し、昇任試験の問題を、従来の細かい知識を問う問

## ■2025年度 広報委員

- ・柳勝久（61期、委員長）
- ・河野雄介（60期、担当副幹事長）
- ・西原和彦（55期）
- ・堀川智子（57期）
- ・溝上絢子（57期）
- ・浦寛幸（59期）
- ・松尾洋輔（59期）
- ・広瀬元太郎（60期）
- ・山田寛子（65期）
- ・金星姫（66期）
- ・木場晶子（67期）
- ・田村瞳（67期）
- ・板崎遼（67期）
- ・吉留慧（68期）
- ・高一成（69期）
- ・根本俊太郎（70期）
- ・足立敦史（71期）
- ・村本健司（71期）
- ・河野哲平（71期）
- ・才木晴幹（72期）
- ・中岡さつき（72期）
- ・中西教子（72期）
- ・久井大輝（73期）
- ・佐々木崇人（74期）
- ・神澤鈴子（74期）
- ・小林悠人（76期）
- ・永田駿（76期）
- ・山口謙都（76期）

題から実践的な問題に変更されました。「ABCの全ての内容を含めて1文で表したとき、解釈する上で誤解の生じないものを1つ選びなさい」という問題をご紹介いただき、参加者みんなで解答を考える場面もありました。市の職員が「解釈で誤解のない文章」を意識的に作れるようになれば、将来の法的トラブルの発生を防止できそうです。

他にも、市議会の懲罰問題や、いじめ防止基本方針を具体的にどう行動すべきかわかりやすい内容に改正したこと、子どもの意見を反映させた「香芝市こども議会」の開催など、法的知見を活かした施策の数々を紹介していただきました。

### ■活発な質疑

講演後の質疑応答では、多くの質問が飛び交いました。

Q 市長と弁護士業の割合は？どう両立していますか？

A 市長としての仕事が8割5分。でも、弁護士の視点で市政をしているし、国選弁護の経験が市政に活かされることも多い。両立というより、重なっているんです。

Q 司法と行政の違いは何ですか？

A 司法は目の前の人を助ける仕事で、行政は制度を変えるなどして多くの人を助ける仕事だと思います。

Q 香芝市の自治体内弁護士はどんな仕事ですか？文書法制課は多くの文書を検討しなければならず、大変そうです。

A 現時点では、庁内で既に問題になっている事案に関する相談に乗っていただいています。今後は自治体内弁護士を増員して、予防法務に力を入れていきたいです。

他にも、非常勤の自治体内弁護士の勤務日数や、監査委員に弁護士を登用する意義・増員方法などの実務的な質問が多く寄せられ、参加者一人ひとりが熱心に耳を傾けていました。

### ■おわりに

今回の春秋の日は、行政と法の接点を考えさせられる刺激的な時間となりました。三橋先生、貴重なお話をありがとうございました。

研修委員会では、今後も先生方のスキルアップや知的好奇心を刺激する研修を続々と企画していきます。次回もどうぞお楽しみに！





10月9日開催！

## 「破産研修（管財事件）」レポート

森山 ジェニー（75期）

10月9日（水）午後6時30分より、破産研修（管財事件）が開催され、14名の弁護士にご参加いただきました。

講師には浦寛幸先生をお迎えし、実務に深く根ざした大変実践的なご説明をいただきました。

### ■ 研修のポイント

- ① 新人弁護士への具体的アドバイス：特に、実務における失敗例など、若手弁護士が特に注意すべき点について、具体例を交えながら分かりやすく解説していただきました。
- ② 経営的視点からの事件処理：破産事件を単なる事件処理としてだけでなく、経営の観点からどのように処理していくべきかという、一歩踏み込んだ実践的なアドバイスも頂戴しました。

浦先生の巧みな講義のおかげで、終始堅苦しい雰囲気ではなく、受講者も肩の力を抜いて、積極的に学ぶことができました。

### ■ 懇親会も大盛況！

研修後には、9名にご参加いただき、懇親会を開催しました。

懇親会では、研修で聞ききれなかった破産に関する専門的な話題はもちろん、日々の実務全般やプライベートな話題について、幅広いテーマで笑いを交えながらざっくばらんに語り合うことができました。

終始、笑顔にあふれた会となり、参加者にとって大変有意義な時間となりました。

浦先生、この度は誠にありがとうございました！



## 第7回ゆるゆるゴルフ開催

柳 勝久 (61期)

9月13日(土)、広報委員会主催のゴルフコンペ、第7回ゆるゆるゴルフ@くずはゴルフリンクスが開催されました。若手のみなさま(腕前的若手も含む)を中心に、総勢12名が参加しました。

「ゆるゆるゴルフ」は、その名のとおり、初心者が参加しやすいよう、「ゆるさ」を極限まで追求したゴルフコンペです。打ちにくければ適当にボールの移動可、グリーン上のOKはその人のレベル次第で柔軟に、パーの3倍のスコアでギブアップあり、空振りは一打と数えないといった初心者に優しいルールが設けられ、今回のコースも河川敷で平坦なため、練習ラウンドにはうってつけて、お値段も大変リーズナブル(昼食付9,650円。昨今は、ゴルフ代もあがっていますが、9月の土曜日もお値段)。

そして、順位は、ハンディ制限なしの「逆」ダブルペリア方式を採用し、ダブルペリア方式(18ホールのうち隠しホールを12個設定し、ホールの合計打数からハンディを計算する)で「最下位」の方が優勝です。



ゆるゆるゴルフでは(ゴルフを離れても?)永遠のライバルとなっている中森先生、広瀬先生は、今回も激闘を繰り広げていました。繁松先生には、午後からお仕事がある中、午前ハーフだけご参加いただきました(お忙しいところ、ありがとうございました!)

今後も、定期的に開催する予定ですので、初心者の方はもちろん、たまにはゆるーくゴルフを楽しみたい上級者のみなさまも、ぜひご参加いただけたらと思います。

## 春秋会新人歓迎旅行のご報告

親睦委員会 中村 桂菜 (75期)

令和7年11月1日、2日に、熊本・天草での新人歓迎旅行が開催されました。新入会員の先生方含め、たくさんの先生方にご参加いただき、大変楽しい旅行となりましたことをご報告申し上げます。

まずは、午前9時30分に伊丹空港に集合。雨が心配でしたが、見事な快晴です。保安検査を無事に終え、飛行機の出発時刻までは、カフェで一息ついたり、朝からお寿司を食べたり、すでに飲み始めたり。全員乗り遅れることなく、出発です！



熊本空港に到着後、バスに乗り換え、まずは「活魚 とらや」さんで、昼食です。馬刺しやからし蓮根など、熊本グルメが盛りだくさんの肥後定食に舌鼓を打ちます。



ここで、午後から予定していたイルカウォッチングについて、海が大荒れのため出航できないという残念なお知らせが。しかし、田村親睦委員長、JTBさんの素晴らしい連携により、急遽翌日に予定していた天草四郎ミュージアムと予定を入れ替えることになりました。

バスの中では、始まりました、恒例の事前アンケートによる、先生方へのインタビュー！魅力溢れる77期の先生方のお話はもちろん、ベテランの先生方のありがたいお話や、インタビュアー上杉先生・杉野先生の合いの手も本当に素晴らしく、楽しい時間となりました。

天草四郎ミュージアムでは、「島原・天草一揆」の歴史的背景などについて、資料や映像で学びました。ちょうど夕暮れで、天草の景色も大変美しかったです。



ほどなくして、本日の

お宿「ホテルアグリアガーデンズ天草」に到着です。温泉で旅の疲れを癒したあとは、待ちに待った懇親会です。

田村親睦委員長の挨拶からの、木村先生の乾杯の音頭でスタートです。天草で育った伊勢海老やあわび、宮崎牛など、九州の海の幸と山の幸がふんだんに使われた美味しいお料理を頂きながら、いよいよメイン企画の始まりです。

懇親会のメイン企画は、「春秋会ダービークイズ」！！手押し相撲や黒ひげ危機一髪など、お題ごとに新人杯、ベテラン杯、親睦委員杯などを開催し、誰が勝利するかを予想するというゲームです。





77期の秋谷先生、長尾先生のプロフェッショナルな洞察力と対応力のおかげで、優勝は我らがAチーム！見事景品をゲットしました。徳山先生、鈴木先生の名司会、さすがでした。本当にお疲れさまでした。



翌日は、天草ロザリオ館・カトリック大江教会や、崎津協会の見学からのスタートです。明治時代に禁教令が廃止されるまで、表向きは仏教徒として振る舞うことを余儀なくされ、信仰を隠さなければならなかった隠れキリシタンの生活や信仰について学びました。



その後は、念願のイルカウォッチングです。イルカが見られる場所まで船で40分ほど進んだところ（船上でドジャースの優勝に歓喜する先生方も）、たくさんのイルカの群れが！イルカウォッチングをこの旅で一番楽しみにしていた先生方もたくさんいらっしゃったので、大盛り上がりでした。



いよいよ旅も終盤です。「道の駅 上天草さんぱーる」のレストランで昼食をいただき、お土産の購入や散策などを楽しんだ後は、天草に別れを告げ、熊本空港へ。

新人の先生方も、ベテランの先生方も、期を問わず交流し、懇親会では一致団結し、春秋会らしい、あたたかい旅行になったかと思えます。来年度以降も、多くの先生方にご参加いただくことを、心より願っております。





去る10月11日(土)に箱作海岸ピチピチビーチで開催されました。

少し秋の気配もしてきたかな、といったところ、当日は快晴&まぶしい日差しと、少し夏に戻ったようなお天気。昨年も参加した我が家は親兄弟にいとこもそろっての大所帯での参加となりました。

去年と会場が異なるのでどうなるんだろうと思っていましたが、砂浜広がる海岸で、子供たちは海に興味津々。貝を拾ったり、松林を駆け回ったりと大騒ぎ。娘は早速海に入り、波が足下の砂を引いていく様子を長く楽しんでおりました。

地引き網が始まり、網を乗せた小舟が浜から沖の方へ。50m?程の半円を描いて戻ってくると、みんなで地引き網(の端の方の網)を持ち、漁を開始。皆さんとってもよい顔で網を引いておりました。ある程度網が浜辺に上がってくると、漁師さんたちが網をまとめて、浜辺に設置した畳1畳近い大きな魚籠へ。鯛、チヌ、エイなどの大きな魚がピチピチ跳ねて海水を飛ばし、子供も大人も大歓声でした。





水揚げされた魚は、今井力先生が片っ端から捌き、そのご指示の元、中原大雄先生が鱗取りを、内臓処理された魚を鈴木伸太郎先生が歯ブラシを使って塩水で洗うなど、親睦委員の先生方の総力戦。始まったBBQにドドンと鯛の半身がまるごと追加されるなど、地引き網ならではのBBQとなりました。



魚は20匹前後あったため、今井先生が食事もとらず、ひたすらに捌き続ける中、某H先生からお刺身が食べたいとの声。できあがったプリプリのお刺身は、意外にも子供たちに大人気となりました。某H先生のさらなるご要望はあらの煮付け。さすがに鍋釜は無いのでは、と思うも迎え撃つ稲生貴子先生も只者ではありません。多彩なBBQ道具

を武器に素敵な料理をご提供いただき、ご要望通りあらの煮付けを仕上げられておられました（絶品でした、ご馳走様でした♪）。

話も多彩に盛り上がり、お土産に水揚げしたお魚までいただけるなど、大変楽しい一日でした。



## — 執行部だより — 穴釣り —

副幹事長 河野 雄介（60期）

広報担当の副幹事長に就任してから、半年以上経過しました。この間、広報委員会のみなさんの精力的な活動のおかげで、充実した内容の会報（秋号）や News Letter（今年から2か月おきの発行となり盛りだくさんとなっています）が発行され、春秋会のウェブページのリニューアル作業も順調に進捗しています。

そこで、会務のことはさておき、我が家（妻と小学生の男児二人と私）の釣り事情についてお伝えしたいと思います。数年前から、我が家では、淡路島の北の方へ釣りに出かけています。少し前までは砂浜からの投げ釣りでキスやメゴチを狙っていたのですが、あまり釣れずに手持無沙汰にしていた折、釣り竿も使わず、釣り糸を手にとって岩のすき間をつんつんと突いている女性を見かけました。ほどなく、その女性が細長い魚を釣り上げ、これはギンポ（銀宝）という魚で、天ぷらや煮つけにするととてもおいしいと教えてくれました。このギンポ（銀宝）という名は、体表が銀白色に輝く姿から「銀の宝」と呼ばれたのが由来とされているようです。江戸時代の料理書にも登場する古い魚で、かつては

高級天ぷら種として珍重されていたようです。外見はウナギのようですが、身は白くやわらかく、味わいは上品です。

以来、我が家でも穴釣りに挑戦するようになり、ギンポに加え、ガシラ（カサゴともいうようで、岩場を好み、見た目に似合わず淡白な白身です）も釣れるようになりました。特に小5の長男はギンポ釣りが得意で、ギンポのあたりがわかるそうです。釣れた魚は冷やして持ち帰り、煮つけや天ぷらにして家族でおいしくいただきます。淡路島での穴釣り（ものすごく地味な釣りですが・・・）に興味のある方は、おすすめのスポットや釣具屋さんをご紹介しますので、ぜひお声がけください。



## あとながき

広報委員会では、会員の皆様から原稿を大募集します。ぜひ、ご連絡ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

などありましたら、以下のアドレスにご連絡ください。

広報委員長 柳 勝久 [katsuhisa.yanagi@dojima.gr.jp](mailto:katsuhisa.yanagi@dojima.gr.jp)